

左京三条一坊の調査

—第343・349次

1 第343次調査

調査地点は奈良市二条大路南2丁目2-23、平城京左京三条一坊九坪内に該当する(図174)。近隣では第242-5次・303-5次など、小規模の調査が最近行われているが、調査密度は希薄な地点である。調査期間は平成14年2月26日～3月5日、面積は18m²。

地表下0.2～0.3mあたりまで、瓦とともに多くの生活廃棄物が埋められた土層があり、その下の土を剥ぐと、調査区北より一段高い遺構面に達する。その南側には江戸時代と思われる東西溝SD8343からあふれ出た青澄褐色粘質土が広がっており、その下が近世と古代の遺構が残る面となる。

検出した遺構はSD8343のほかに、同じく江戸時代の井戸2基(SE8337・SE8340)や落ち込み状遺構SX8344などが主たるもので、それ以前の遺構としてはSK8338が唯一奈良時代の柱穴である。SE8337はその最下層に井戸枠状の木質残片が検出されたが、土と同化しており、遺物として取り上げることができなかった。SE8340は遺構検出面から1.1m掘り下げても底に届かない深いもので、素掘りである。

出土遺物は井戸から出土した江戸時代の擂鉢や瓦質土器、陶磁器がほとんどである。またSD8343からは江戸時代の巴文軒丸瓦や下駄が出土した。
(高橋克壽)

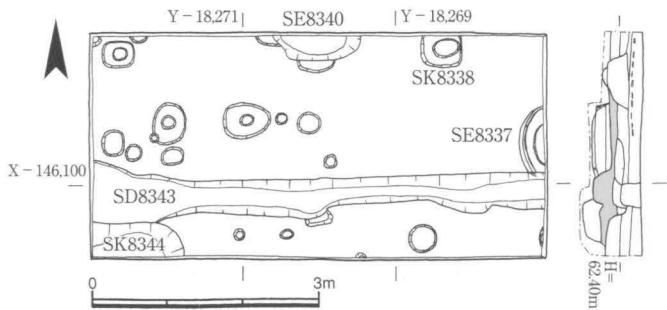


図173 第343次調査遺構平面図 1:100

2 第349次調査

店舗増築に伴う事前調査である。現在の二条大路北端から50mほど北に入った地点で、左京三条一坊十五坪にあたる。調査区は第230次調査IV区より5m南に位置す



図174 第343次・第349次調査区位置図 1:2000

る。調査面積は約12m²。調査期間は平成14年9月9日～9月12日。

遺構検出面は約61.00m。調査区の西半分は深い現代の投棄土坑があり、奈良時代の遺構面は残っていないかった。東半分で掘立柱建物の柱穴を1基(SB8415)と小穴、南北溝SD8416を検出した。今回検出したSB8415の柱穴規模は、第266次調査で検出されたものとほぼ同じ大きさである。既調査分の掘立柱建物との関連は不明である。遺物は奈良時代の瓦、土器が少量出土した。

十五坪と十六坪は比較的、調査が行われている地域であり、両坪が一体として利用されていたことが指摘されている。とくに近接する第230次IV区では大形建物群が多数検出されているが、いずれも南へと続きそうなものはなった。

今回の調査区で十五坪北半と同規模の柱穴を検出したことによって、十五坪南半にも大形建物群が存在する可能性が強まったと言えよう。
(神野恵)

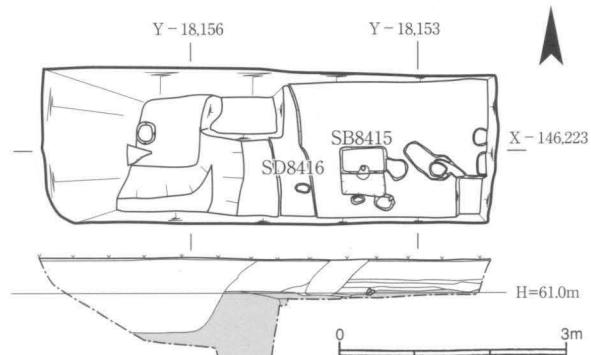


図175 第349次調査遺構平面図 1:100